

## コロニー協会後援会 総会開催

・平成18年10月21日  
・会場：オーヌマホテル

総会では、本間後援会会長に続いて、新しくコロニー協会会長に就任した櫻田会長から挨拶があり、議事では各議案が原案通り承認された。本間会長からは、後援会の原点に帰った活動が必要であることや、現在の協会の事業に対する会員の理解と協力が求められた。会員からも停滞する後援会活動に対する抜本的な対応について意見が出された。協会側からは須貝常務理事が、障害者自立支援法施行に伴う協会事業の移行について説明を行った。

総会に先立ち役員会が開かれ、また、総会終了後には会場を移し、懇親会が行なわれた。懇親会では、これまでの後援会の経緯に触れながら、これからもコロニーを盛り立てていくことを語っていた。



## コロニー協会と松尾先生

山形県コロニー協会後援会

会長 本間 利雄



コロニー協会と聞くと、松尾先生（初代会長）を想い出してしまふ。後援会の会長をお引き受けすることになったのは、松尾先生からのお話であった。先日、後援会の総会の席で桜田先生（会長）から、コロニーの想い出を一言書いてもらいたいとお話を受けた。コロニーと松尾先生との記憶をたどってみる。

一九八四年のある日、松尾先生の突然の来訪になにごとかと驚き、お会いしてコロニーについていろいろ説明を受け、後援会に入会することになった。少しでもお役に立つことができればと、会員増強運動に協力させていただいた。後援会の会員に建設関係の方が多いのは私から入会を懇請したからである。

コロニー協会後援会の会長は近藤誠伍さん（関東医師製薬会長）で、当時、服部敬雄氏（山形新聞社長）、村山義平氏（山形新聞専務）に松尾先生が相談されていたの就任とお聞きする。松尾先生は常に先頭に立ってコロニー協会の活動を展開されておられたように思う。

私が松尾先生と知己を得たのは昭和三十五年。先生の明朗闊達で周囲のみなさんにいつも笑顔で接す

るお人柄、年齢を感じさせない行動力に敬愛の念をもっていた。以来、少しでも先生のためにと考え、コロニー協会後援会の存在意義を高めたいと会員相互のコミュニケーションを考えてきた。

その松尾先生も近藤誠伍会長もお亡くなりになり、後援会会長をお引き受けすることになった。松尾先生のご霊前で、コロニー協会後援会は先生の理念を受け継ぎ、多くの人々の善意をいただきながら頑張っていけますとお誓いしたのであった。岩田利雄氏（コロニー協会四代会長）が就任されて、コロニー協会のあり方についてたびたび相談を受けた。岩田さんは松尾先生の理想を受け継ぐために真剣に考えておられ、私がわがままな意見を申し上げても、快く聞いていただいた。その一つに、会員に集っていただいてお茶一杯では、その会場も福祉工場の食堂では、もう少し考えてほしいなどと申し上げ、ホテルを会場にして懇親会を開くことになったことなど想い出される。

障害者自立支援法が平成十七年十月三十一日成立した。「障害者が自立して地域で安心して暮らせるように支援する法律」であるのなら良いのだがと、コロニー協会常務理事工場長の須貝さんと統括事業部長の鈴木さんは、地方財政難の危機的状況下で地域格差の問題が起こってくると語る。私ども後援会はどうな支援ができるのだろうか。日本の福祉はどうなっていくのであろうか。多くのみなさんの限りないご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（本間利雄設計事務所代表）